



СОЁЛ ЭРДЭМ ДЭЭД СУРГУУЛЬ

モンゴル文化教育大学



連絡先:

モンゴル国ウランバートル市スフバートル区第一地区15号
私書箱: P.O.Box 48-88 モンゴル文化教育大学
Ulaanbaatar, Sukhbaatar district, Olympic street
P.O.Box 48-88 Soyol Erdem University

電話: 976-70118584 976-11326947

Fax: 976-11326947

E-mail: soyolderdem.daigaku@gmail.com,
soyolderdem.daigaku-1@gmail.com

Web: www.soyolderdem.edu.mn

Page: [https://www.facebook.com/](https://www.facebook.com/www.soyolderdem.edu.mn)
www.soyolderdem.edu.mn

モンゴル文化教育大学の主旨



Соёл Эрдем дээд сургуулийг үүсгэн байгуулагч, Удирдах
зөвлөлийн дарга Макихара Соичи

モンゴル文化教育大学創業者・理事長 牧原創一

モンゴル文化教育大学は、モンゴル国内の大学で、唯一日本語教育を重視した私立4年制大学である。また、日本とモンゴル両民族の「草の根」友好交流とモンゴル民族同士の敬愛の結晶でもある。

モンゴル民族の居住域はモンゴル、中国、ロシアを中心に広い地域にわたっている。20世紀はモンゴル民族にとっても、大国に翻弄された受難多き悲惨な時代であった。

1989年、ロシアをはじめ、東ヨーロッパ諸国の民主化の流れを受け、モンゴル国にも激動の時代がやってきた。旧ソ連の支配体制にピリオドを打ち、民主的主権国家として再出発した。独裁体制のなかで苦しみつづけたモンゴル国は、その抑圧から解放され、真の自由を得たのである。今、国際化が進む現代社

会のなか、経済的に立ち遅れたモンゴルでは、先進国の高度な技術をより必要としている。それを吸収するために、豊かな心、広い視野、豊富な常識、謙虚な態度、誠実な人柄をもつ人材を育成しなければならない。モンゴル文化教育大学の目的は、信念と理念をもって、人類の平和、発展と繁栄のために、国家、民族、地域、人種、宗教、偏見、差別など、人間を隔てる壁を乗り越える力をもつ人材を育成していくことである。我々は教育を通して、消極的なものを積極的なものに生かす道を歩んだ大モンゴル・チンギスハーン以来の伝統精神、及び人と人が信じあう勇気を学ぶ必要がある。また、お世話になった方々に常に感謝の心もち、信頼を大切にする義理堅き人間を育成し、モンゴル社会の発展と民族繁栄を促進することを期待する。モンゴル文化教育大学は常に、愛と希望をもって、積極的に社会活動に身を投じ、豊かな社会と民族の繁栄に貢献できる人材を育てる場となることを目指している。

Soyol Erdem University is the only four-year university which has an emphasis of the Japanese education in Mongolia. Also, we have a friendship exchanges called Grass-Roots between Mongolia and Japan, and here's the stage for Mongolian respect and affection.

The Mongolian ethnic is spread to live between territory of China and Russia. Twentieth century was like tragic age that Mongolia was at the mercy of great powers of those countries, and had a lot of difficulties to overcome at that time.

In 1989, Mongolia was affected by movement of democratization from Russia and Eastern European countries, and the tumultuous age started in Mongolia. Therefore we have put a period to former Soviet Union's dominant system, and had a fresh start as a democratic state. Finally, Mongolia obtained the true freedom after releasing from the suppression of dictatorship.

Now Mongolia really requires the advanced techniques from developed countries in the international society of modern, accordingly we must encourage the human resources with peaceful mind, broad visions, a wealth of common sense, humble attitude and sincere personality.

The goal of Soyol Erdem University is to cultivate the human resource who can overcome the wall of separating the human such as nations, ethnics, areas, races, religions, prejudice, discrimination. We hope these people will play an active part with beliefs and ideas for the human peace, developments and prosperity in this world. We also would like to encourage the human resources who create a caring society as a member of the world community through education by interaction of minds and hearts.

I reckon we must learn the traditional spirits of Chingis Khaan who was trying to change negative things to positive one in his life. In addition, we need to learn the courage to believe each other. We expect that we could grow people who have gratitude to the indebted person's and big trust from the others. We believe that these people could promote the development and superiority of this country in the future.

Soyol Erdem University has love and hope to participate in social activities actively all the time. We are sure that it will be a stage to create the peaceful society, where cultivate people who can contribute for the superiority of Mongolian ethnic.

モンゴル文化教育大学大学案内



Соёл Эрдэм дээд сургуулийн захирал доктор.проф Ши.Батбаяр

モンゴル文化教育大学学長 Sh.バトバヤル教授



大学の沿革

1993年、日本の公益財団法人ハーモニィセンターがウランバートル市にユートピア日本語学校を設立。1996年に4年制の「モンゴル文化教育大学」に昇格し、日本語教師・翻訳士の専門で入学生を受け入れ始めた。

現在、本学の教職員数は約40名で、この中には日本人専任講師も含まれる。日本語通訳・翻訳学科、日本語事情学科、国際ジャーナリスト学科、国際経済経営学科、コンピューター・プログラム学科、観光環境学科の5つの専門学科で約400名の学生が学んでいる。さらに、日本語予科コースで約15名の社会人が、日本語を学習している。

2000年に第一期生32名が卒業し、現在までに約3500名の卒業生を社会に送り出している。卒業生の70%～85%が専門を引き続き研究し、専門を活かして

Соёл Эрдэм дээд сургуулийн дэд захирал доктор.проф
Т.Доржсдагва
モンゴル文化教育大学副学長 Т.ドルジダグワ教授

就職している。また、モンゴル語やモンゴル文化を学習する外国人留学生を受け入れている。日本の大学の学部生を短期間インターンシップとしても受け入れている。

在モンゴル日本国大使館が実施する国費留学生試験にも多くの学生が合格し、今までに28名が国費留学のチャンスを掴んでいる。また、日本語短期実習生として、これまでに300名近くの学生たちが日本で3か月間の実習を行ってきた。今まで短期長期留学実習研修、インターンシップ生として日本へ約1400名の学生を送り出している。

毎年12月に、学生たちの日本語への興味・関心をより高め、日頃の日本語学習の成果を発表する「文教祭」が行われる。1年生は合唱、2年生は演劇、3年生はスピーチ、4年生は詩の朗読をすべて日本語で行う。例年、在モンゴル日本大使館の方々をはじめ、在留邦人、日本語を勉強している小中高生や保護者まで多くの方々が見に来てくださる文化祭の一環である。



Соёл Эрдэм дээд сургуулийн багш, ажилчид

モンゴル文化教育大学教職員

日本語学科

日本語学科では日本人教師と、日本で大学を卒業した経験のある博士、修士のモンゴル人教師たちが総合日本語、日本語文法・漢字、日本史、日本文学、観光日本語、比較文法など様々な授業を教えている。

日本語学科は日頃の日本語学習以外に、学生の日本や日本語に対する興味と知識を深め、日本の文化・習慣を紹介するために、様々なイベントを行っている。その代表的なものが「文教祭」である。すべて日本語で発表するため、日本語学科が中心となって行っている。また、年間を通して日本語クイズ大会、ちぎり絵、折り紙、生け花、書道、紙芝居、創作漢字コンテストなど、日本文化に触れる行事を学生向けに行っている。毎年、日本語学科の4年生は日本語で各自の論文・翻訳作品を発表をしているのは、本学科の特徴だと言えるだろう。



Япон хэлний тэнхимийн багш нар

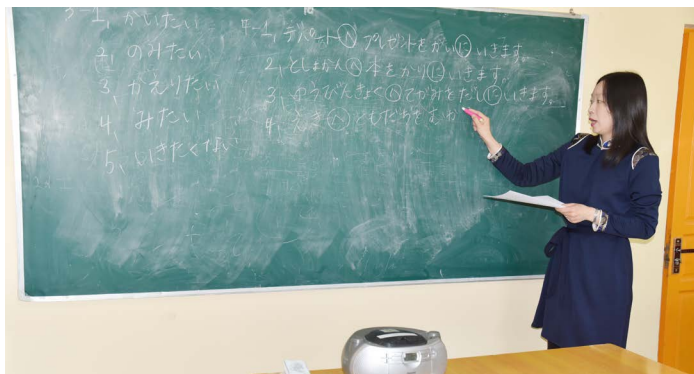
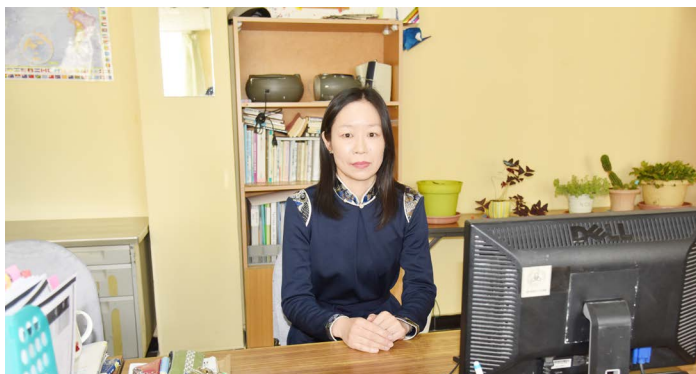
日本語学科教師陣



Япон хэлний тэнхимийн эрхлэгч М.Мөнхцэцэг

日本語学科主任 M.ムンフツエツェグ

モンゴル文化教育大学の特徴として、日本語教育に力を入れていることが第一に挙げられるでしょう。毎年、日本大使館の国費留学試験の合格者もいますし、日本へ多くの留学生やインターンシップ生を送り出しています。彼らのなかから、将来のモンゴルの国づくりやモンゴルと日本の交流に貢献し、活動できる人材が出てくることを願っていますし、そういった人材を育てることが大学と私たちの使命です。学生にはコミュニケーション能力を発揮し、他者に発信し、「つながる」人であってほしいと考えています。グローバル化の進展により、今後ますます多様な背景をもった人々と出会い、関わり合う時代になります。4年間しっかり学習して、高い日本語能力や日本についての知識も身に付けられれば日本語でこれらを駆使できる能力がつくはずで



Япон хэлний багш Мотай Акико

日本語教師 麿 暁子



Япон хэлний багш Б.Мөнхтуул

日本語教師 В.ムンフートル



Япон хэлний багш Асами Коичиро

日本語教師 浅海宏一郎



Япон хэлний багш Б.Туул

日本語教師 В.Т-оол



Япон хэлний багш Б.Энхжин

日本語教師 В.エンフジン

社会専門学科

1999年に国際経済経営学科、国際ジャーナリスト学科、2004年にコンピューター・プログラム学科、観光環境学科が設立された。現在、英語教師と経験のある博士、修士を終えた先生方が勤めている。社会専門学科は学習活動以外に学生たちの知識を深める、チームワークで働く力を高めるために毎年、1年生と2年生の学生を連れて、遠足や植林ボランティア活動を行っている。



Мэргэжлийн тэнхимийн багш нар

社会専門学科教師



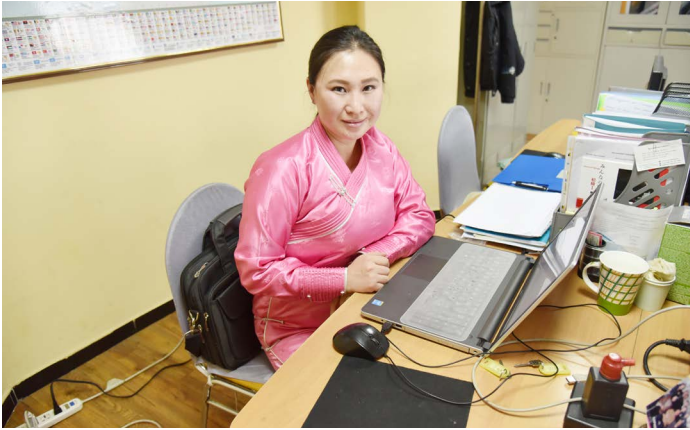
Эдийн засгийн багш Ө.Нямсүрэн

経済学教師 U.ニヤムスレン

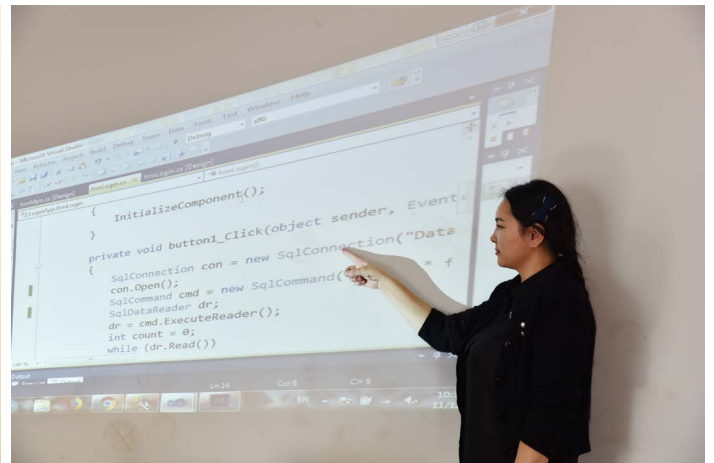


Англи хэлний багш Н.Азтэгш

英語教師 N.アズテグシ



Компьютерийн багш Э.Мөнхцэцэг
コンピューター教師 E.ムンフツェツェグ



Мэргэжлийн тэнхимийн эрхлэгч Д.Саулегул
社会専門学科主任 D.サウレグル

教務課

教務課の仕事は、学生たちが教育を受けるのに良い環境を整え、提供することである。そのため、授業が行われる教室をはじめ、必要な教材・教具を提供し、教師たちの知識レベルを常にアップさせることを重視している。また、国の教育基金や文部省とやりとりして、大学の教育活動に関する情報を教師や学生たちに提供している。その他、学生たちの出席をとりまとめたり、期末成績と学年成績をまとめて、コンピューターに入力する。教務課には、教務課主任と教務課マネージャーが勤めていて、一年を通じて日本語学科と協力し、留学や日本語実習で日本へ行く学生たちの選抜、面接試験、学費支援を受ける学生たちの登録と、国の教育基金への報告、大学の日常教育活動を管理なども担当している。また、本学所属の「シリボラグ・ツーリストキャンプ」で実習する学生たちを派遣するのも、教務課の仕事である。年度のはじめに年間計画をたて、年度末に結果を報告する。



Сургалтын албаны дарга Д.Алимаа
教務課主任 D.アリマー

Сургалтын албаны менежер Д.Мөнхцэцэг
教務課係り D.ムンフツェツェグ

図書館

はじめ図書館は1993年に設立された。蔵書数は1万7千318冊で、種類も多い。その内、日本語の図書は約1万冊で、日本語、日本文化、日本史、日本文学、国語辞典、漢和辞典、百科辞典、子供向けの様々な本がある。1人の学生につき24冊の本という割合だ。閲覧室でインターネットができるので、学生にとって情報を得たり、宿題をするのにより機会が与えられている。日本語の授業に必要な教科書などを印刷して、提供している。



Номын сангийн эрхлэгч Т.Туул

図書館司書 Т.トール

経理課



Нягтлан бодогч Н.Сайханцэцэг
会計士 N.サイハンツェツェグ



Аж ахуйн дарга Ц.Баярбаясах
総務係長 Ts.バヤルバヤサフ



Нярав Н.Болортуяа
経理担当 N.ボロルトヤ



Захирлын нарийн бичиг О.Шинэбаатар
学長秘書 O.シネバータル

学生会



Оюутны зөвлөлын дарга
Г.Хишигбат
学生会会長G.ヒシグバト

学生会は、学生たちに関するすべての問題を解決し、学生たちの権利を守る目的で設立されている。

学生会の目的；

- ・学生たちの能力、礼儀作法、専門的な知識、学生活動に対する積極性を高めるため、社会問題や経済分野など専門的な講義やミーティング等課外活動を行う。

- ・毎日学生たちに新しい情報を提供する

- ・学生たちの才能・能力をより高める、発見するためにイベント、スポーツ大会を1年を通じて行う
- ・大学の教育活動にも学生代表として参加する、学生たちからの意見を大学に伝える

学生会の組織；

学生会会長：日本語事情学科3年生ヒシグバト

担当 教師：日本語教師ムンフトール

学生委員会：15名の学生で組織されている

学生会主催の主なイベント；

- ・バスケットボール大会
- ・ハロウィン
- ・新年パーティー
- ・植林&その他ボランティア活動
- ・遠足
- ・文教祭
- ・学科紹介イベントその他

モンゴル文化教育大学国際交流



Гадаад харилцааны менежер Б.Ханчигурун
国際部担当 B.ハシチヨローン

モンゴル文化教育大学は日本語教育を生かし、日本との人材交流に力を入れている。目的は、学生たちが日本の高度な先進技術、仕事に対する責任感、時間を守るモラル、サービス精神、ノウハウ等日本の伝統的な文化をも吸収し、モンゴルの発展に貢献することである。1993年に初めて日本で「モンゴル応援団」が設立され、主に在日留学生、実習生を応援し、また、モンゴル文化教育大学に日本語教材を送っていた。現在「モンゴル文化教育大学学生支援会」、「モンゴル文化教育大学後援会」等任意団体を作り、在日留学生、インターンシップ学生、技能実習生を支援し、精神的な面でも日本の風俗習慣やしきたり等日本の生活指導を行っている。

日本の提携大学等との交流を深め、交換留学生、奨学金留学生、学費割引留学生を送る他、日本企業団体の奨学金をも生かしている。国士舘大学21世紀アジア学部、電波学園

等には特待生、桜美林大学には毎年3名ー4名の奨学生を送っている。立教大学異文化コミュニケーション学部と2017年に提携を結び、学生同士の国際共同環境研修、日本語教育インターンシップを実施している。ABK学館日本語学校と2016年に提携を結び、夏休みの短期日本語講座に毎年2名の学生が参加している。また、2018年にはABK学館日本語学校創立5周年記念に本学日本語学科教師が招待され、国際日本語教育プロジェクトに参加した。現在まで日本には約1400名以上の長期、短期の留学生、技能実習生及び短期研修生を送っており、両国の人材育成交流には大きな貢献をしていると言えるだろう。その他、台湾の開南大学においても10名以上の学生が4年間の特待生奨学金で勉強している。

また、2002年からビューテック株式会社と提携し、これまでに300名近くの卒業生を技能実習生として送り出している。技能実習が終了し、帰国後は、ビューテック・モンゴルに勤める他、多くは日本で身につけた知識を生かし、主に在モンゴルの日本企業や日本と関係のある企業法人に就職している。日本で金型設計技術を取得した人材は、そのままビューテック株式会社及びその他の企業に就職して活躍している。

本学の卒業生の多くはモンゴル国内では、日本大使館をはじめ、JICA、日本企業、官庁、行政や旅行社等日本と関係のある企業・法人等に就職して活躍している。最近、日本で留学した卒業生たちは、日本の企業に就職するのが目立っている。現在、100以上の卒業生が日本の企業法人に就職している。一部の卒業生は、自ら企業法人を立ち上げ、日本社会に大いに活躍している。その他、50名以上の卒業生が日本人と結婚し、公私ともに両国の交流を深め、円満な生活を送っている。それゆえ、モンゴル文化教育大学は、モンゴルと日本両国との文化、教育、人材、経済的な親善交流の大きな架け橋になっていると言えよう。

提携機関

本学と提携している日本の主な大学及び専門学校等

- ・桜美林大学
- ・北海学園大学
- ・日本ウエルネススポーツ大学
- ・ノースアジア大学
- ・中央学院大学
- ・日本体育大学
- ・拓殖大学
- ・新潟産業大学
- ・日本薬科大学
- ・学校法人電波学園
- ・国士舘大学アジア21世紀学部
- ・白鳳女子短期大学
- ・大原日本語学院
- ・横浜デザイン学院
- ・AKB学館日本語学校
- ・東京語文学院
- ・共立日語学院
- ・福岡動物看護師専門学校等

技能実習生受入先

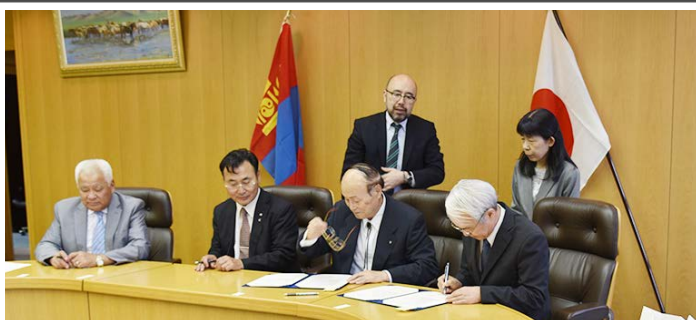
- ・北海道ハイウェイサービス協同組合
- ・NKファーム株式会社
- ・経済振興事業協同組合
- ・田中自動車株式会社
- ・アジア共栄事業協同組合（予定）
- ・ビューティック株式会社

インターンシップ学生受入先

- ・愛知県海栄館ホテル旅館グループ
- ・群馬県万座温泉日進館
- ・山梨県萌木の村
- ・株式会社セラヴィリゾート泉郷
- ・株式会社プリモその他



新潟産業大学北原学長と牧原理事長両大学学術人材育成交流協定調印式で



北海学園大学森本正和理事長と牧原創一理事長の協定書調印式



日本私立大学協会創立70周年記念事業に参加・契約結んだ



ТАЙЛБАР



ТАЙЛБАР



ТАЙЛБАР

国際学術交流

日本私立大学協会と2016年に協定を結び、学術交流を行っている。2018年9月にはモンゴル文化教育大学創立25周年を記念して、「モンゴル近代史、人文教育、都市計画と環境問題」というテーマで国際シンポジウムを開催した。

モンゴル文化教育大学創立25周年記念 2018 国際シンポジウム「モンゴル近代史、人文教育、都市計画と環境問題」



モンゴル文化教育大学創立25周年記念国際シンポジウム



シンポジウム終了後



日本私立大学協会常務理事・事務局長小出秀文様の発表



佐藤寛中央学院大学現代教養学部長、
社会システム研究所所長、教授(博士)



前在モンゴル日本国大使館特命全権大使城所卓雄様の講演



中央学院大学学長市川仁様のご挨拶



ウランバートルエルデムオユ大学学長の講演 T.ドルジ



モンゴル私立大学協会会長のご挨拶 B.エルデネスレン様



JICA専門家福島誠一郎様の講演



都馬バイカル桜美林大学教授(博士)の講演

モンゴル文化教育大学毎年恒例行事「文教祭」

「文教祭」は日本の文化祭にあたります。「文教」は文化教育大学の略です。モンゴル文化教育大学は、モンゴルでは唯一の日本語教育を重視した4年制の私立大学です。各学科の学生は日本語を必修科目とし2年間勉強します。

年に一度の文教祭は、学生たちが一年間に勉強した日本語の成果を披露する晴れ舞台です。

学生会の主催で、全学生が参加します。すべて日本語で行われ、一年生は歌、二年生は演劇、三年生はスピーチ、四年生は詩の朗読を発表します。



日本語学科1年生合唱「小さな恋の歌」



日本語学科1年生合唱「踊るポンポコリン」



合唱 1B1-A「手の平を太陽に」



4年生による詩の朗読「九つの宝物」



日本語学科2年生演劇「学生兵士」

野外活動

本校ではモンゴルの自然環境と草原を守るための教育を行っています。とくに「植林の重要性」の意識を高めるために、毎年1人3本ずつ木を植える活動を試みています。

また、教職員と学生の健康を考えるスポーツ行事として、本学が所有するシリンボラグ・ツーリストキャンプ場をめざして遠足を行います。そして、大草原のキャンプ地において3日間スポーツ大会を行います。また、日本及びその他海外から教師陣を招いて「青空教室」での講義も催しています。



Соёл Эрдэм дээд сургуулийн жил бүр уламжлал болгон зохион байгуулдаг Явган аялал

毎年恒例の遠足

モンゴル文化教育大学のシリンボラグ・ツーリストキャンプ



モンゴル文化教育大学運営の「シリンボラグ・ツーリストキャンプ場」はウランバートル市から東方向へ約60KM、チンギスハーン像があるソンジンボルダグより7キロ離れたところにある。お客様は主に騎馬トレッキングを楽しむ日本人が中心で、リピーターが多い。よって、キャンプの料理は日本人の口に合うように、工夫しており、油っこいモンゴル料理や肉料理より、野菜を使った料理が多い。一部の野菜は学生たちがキャンプで作っており、新鮮な野菜が食べられる。

シリンボラグ・ツーリストキャンプの特徴は多くのモンゴル文化教育大学学生たちが、勉強の一環として実習をしており、乗馬インストラクターからレストランのウェイトレス、ゲル設備等の管理まですべて本学の学生たちが担っている。学生たちにとって日本人と会話ができることが勉強であり、楽しみである。お客様にとっては学生たちが日本語が少しできるので、直接学生たちとコミュニケーションが取れ、安心して乗馬や大草原の生活を満喫していただける。お客様から「乗馬は楽しかった」という声はもちろん、「学生たちとの交流が何より楽しかった」という声が圧倒的に多い。日本語を学ぶ学生たちと交流するという、他社のキャンプ、乗馬や旅行ツアー等ではできない、この「シリンボラグ・ツーリストキャンプ場」ならではの楽しみがあるから、リピート客が多いのだといえるだろう。

シリンボラグ・ツーリストキャンプは高山植物の自然の花畑に包まれ、森に囲まれた美しい景色は抜群である。騎馬トレッキングは自然の花畑の景色を眺めながら、森林浴をするのも楽しみの一つである。ハーブの香りが漂う草原を乗馬しながら、学生たちのおしゃべりをするのも楽しみであらう。シリンボラグ・ツーリストキャンプは衛生面でも配慮し、水洗トイレ、シャワー、サウナ、日本風の浴場まで用意されている。24時間通電等快適で環境宿泊設備を提供し、リピーターの好評を博している。





桜美林大学とモンゴル文化教育大学の学生たちの交際交流環境研修



本学所属「エヘシゲレン」民族音楽芸術団



1996年、本校所属の「モンゴル・エヘシゲレン」民族音楽芸術団を設立。若手の優れたミュージシャンを集めた「モンゴル・エヘシゲレン民族音楽芸術団」は設立以来、モンゴルと日本両国の国際交流の一環として、毎年、日本を訪れて地域の文化会館をはじめ保育園や幼稚園、小学校、中学校、高校、老人ホームなど、福祉施設を中心に馬頭琴、民族舞踊、民謡、民族衣装ファッションショーなど、

モンゴルの伝統音楽・芸術文化公演を披露し、好評を博している。

また、文部科学省の協賛と日本中央青少年団体連絡協議会の推薦公演および国際交流基金の助成金により訪日公演も行い、さらなる日本と草の根文化交流を深めている。

そのほかドイツ、フランス、イタリアなどヨーロッパ諸国をはじめ、中国、韓国でも公演を行い、活発な国際文化交流を実施している。

なお、訪日公演メンバーは16人で編成されている。



2018年度留学実習研修に行った学生たち



日本語事情学科3年生
ゲレルスレン
桜美林大学



日本語事情学科3年生
ボルガントヤ
桜美林大学



日本語事情学科3年生
ヤンジンスレン
桜美林大学



日本事情学科3年生
ホスエルデネ
早稲田大学(国費留学)

山梨県萌木の村に インターンシップ学生



日本語通訳・翻訳学科2年生
アンフザヤ、ガントヤ

北海道NKファーム 技能実習生

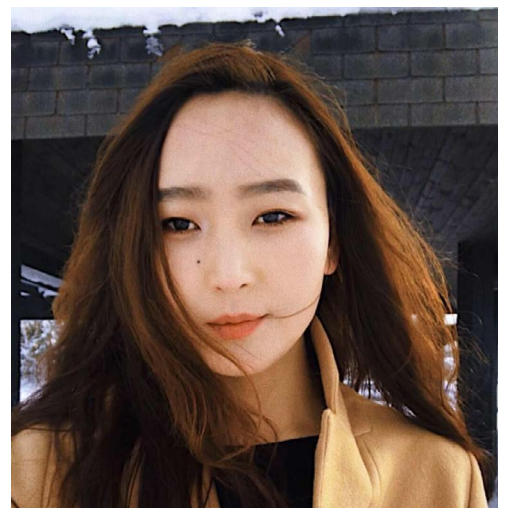


オユエルデネ、ゾルツェツェグ、サランザヤ

ビューティック社で研修している技能実習生ら



ハリウナー、ムンフチメグ、ニヤムスレン、バトドラム、ムンフザヤ、ホロルスレン



サロール

ビューティック社で研修している本学研修生たち



愛知県のビューティック社にて、本学卒業生が3年間の研修生として働いている。卒業後は母国で習得した技術を活かす仕事に就いたり、日本で正社員として就職した卒業生も数多い。

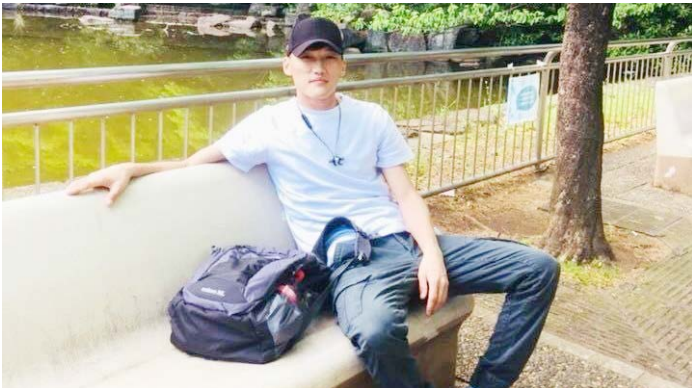


東京”ミニー・モンゴル”教室



本学卒業生ブジン。東京在住のモンゴル人の子供たち40名ほどにモンゴル民族舞踊、モンゴルの文化を教える教室を開いている。

千葉県田中自動車株式会社にて3年間の技能実習生



エルデネビレグ、ヘルレンバヤル、バートルガ

立教大学異文化コミュニケーション学部の3人の学生がインターンシップとして本学で日本語教育短期実習を行った



学部4年生小松明日香

みなさん、こんにちは。9月に実習させていただいた立教大学の小松明日香です。帰国して数日、すでにモンゴルが恋しいです。今回、初めてモンゴルに行きました。毎日新しい発見があって、とても充実した濃厚な時間を過ごすことができました。日本車の多さや食べ物の安さなど、生活面での気づきはもちろんありましたが、ここでは授業のことを書きたいと思います。

授業をする中で、モンゴル語のわからない私の言いたいことを必死に理解しようとしてくれて、私の問いかけに答えてくれようとする学生の皆さんに、何度も助けられました。学生同士、学生と私の間での助け合いがあって授業が成り立っているということを実感しました。また、日本に行きたいという強い気持ちがクラスの雰囲気からも伝わってきて、とても嬉しかったのと同時に、私も頑張らなくてはと背中を押されました。授業以外でも、すれ違うと「おはようございます。」「こんにちは。」と声をかけてくれて、皆さんの一言にすごく元気づけられたように思います。また、モンゴルの歴史や文化を日本語で教えてくれて、皆さんの故郷や家族を思うあたたかい気持ちを肌で感じることができました。

1週間という短い期間ではありましたが、刺激的な時間をありがとうございました。数ある中から日本語を選び勉強している学生がこんなにもいることにとても幸せを感じました。だから私はある学生に言われた、「日本の人にもっとモンゴルについて知ってもらいたい。」という思いを日本で体現していきます。皆さんも、何か目標を持って、楽しく日本語を勉強してください。次また皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

一日一日が本当に濃くて、常に新しい学びや発見のある日々でした。どうしたらひらがなを楽しく学べるかを考えて手作りのかるたを作成したり、文法を分かりやすく理解してもらうようにJ-POPを聴いてもらったり、私が準備したものを素直に受け入れてくれた大学の生徒は、本当に素直で生き生きしていたのが印象に残っています。

私は今まで個人塾の講師として生徒に英語を教えた経験はありましたが、教壇に立って集団の生徒に授業をするのは初めてでした。授業がはじまる度に緊張してた新米の教師を、「先生!」と呼んで積極的に学んでくれる姿勢がとてもうれしくて、私の実習のモチベーションとなっています。モンゴルでの学び・経験は私の日本語教師という目標だけでなく、私の人生のスケールにおいて良い刺激になったと思います。

今の1年生が4年生になる時期ぐらいにまたモンゴル文化教育大学を訪れて、日本語で色々な話をしてみたいです。その日をとても楽しみにしていますので、日本語の勉強をがんばってください。12日間ありがとうございました。



学部3年生 廣田春菜



学部3年生 山下美優

しいと感じることもあると思いますが、楽しみながら学んで欲しいです。

モンゴルで過ごした数日間で、モンゴルのことを好きになりました。また行きたいと思います。ありがとうございました！

こんにちは。立教大学3年の山下美優です。9月中旬に7日間モンゴル文化教育大学で実習をさせていただきました。

モンゴルに行くのは初めてで、言語や生活、食事などたくさんの不安がありました。しかし、4年生や先生方のサポートのおかげで困ることなく生活できました。食事はどれも美味しく満足でした。日本語を教えることも初めてで、いきなり授業に入ってくださいと言われた時は驚いたし、どうすればいいのかわかりませんでした。私が任されたほとんどは日本語を学び始めたばかりの1年生の授業でした。私の言うことを一生懸命理解しようとしてくれて、練習問題にも真剣に取り組んでくれました。問題を解き終わると「先生」と呼んでくれることがとても嬉しかったです。

他の学年の授業やおしゃべりクラスも、みなさんのおかげで楽しくやりきることができました。日本人として、日本や日本語に興味を持っていてくれる人がたくさんいることを嬉しく思います。日本語を難



2008年第8期卒業生バトソリ
モンゴル国第23代横綱



日本のスーパースターバトールガ大統領と面会された日本スーパースター俳優&監督千葉真一氏、篠原今朝男会長ら2018年9月



本学の代々の卒業生の代表らが学長、理事長、教職員と懇談。



ビューテック(株)の技能実習生らを慰問しての記念写真
2018年



星城大学学部長盧聡明教授と牧原理事長



毎年星城大学の先生方が本学で説明会・入試を行う。
星城大学の先生方と本学卒業生、日本語学科教員。



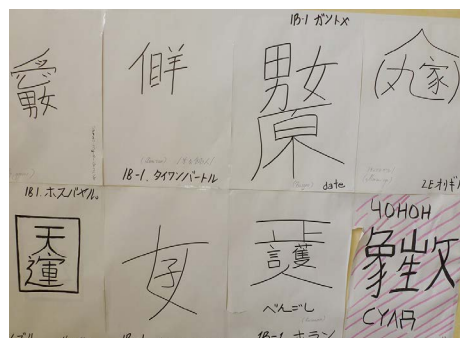
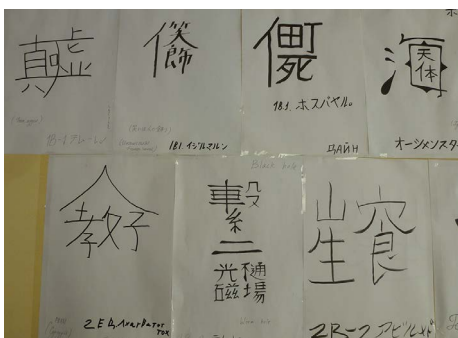
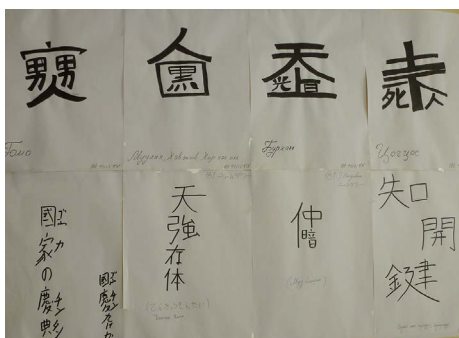
篠原会長がモンゴル文化教育大学学生のために星を眺める望遠鏡を寄付し、その設定を自ら行い、また、学生に星の見方を教えた。2017年8月10日



日本文化紹介の一環、茶道体験。



毎年恒例の行事、2年生「紙芝居大会」の作品。



本学学生たちによる「創作漢字大会」の作品。



ウランバートルで開催された「日本祭り」に、本学の学生たちが大学紹介、イベントスタッフ、イベント通訳などで参加し、活躍した。



雄大な自然と素朴な暮らし…見渡す限りの大草原 モンゴルでの生活は「生きる」意味を教えてくれる

モンゴルは、中央アジアのゴビ砂漠とシベリアの針葉植林帯の境に位置し、人の手のはいらない地域の多い大自然に満ちた国です。水は澄み、湖は鏡のように空を映し、果てしなく広がる大草原には色とりどりの草花が咲き誇っています。その絶景のなかで、遊牧民たちは遥かな昔から変わることなく素朴な暮らしを営んでいます。

政治・経済面では、1989年以降、モンゴル版ペレストロイカが推進され、1992年には国名を「モンゴル人民共和国」から「モンゴル国」へと変更しました。社会主義から市場経済への移行も急ピッチで進行されています。

日本・モンゴル間の交流・協力関係も急速に進展し、国際舞台において日本が対モンゴル支援の主導的な役割を担い、民間交流も活発に行われています。2年前には南ゴビにおいて、世界でも屈指の何千億トンもの埋蔵量を有す良質の無煙炭と銅が発見されました。

今後、日本とモンゴルの交流は政治・経済とも、民間レベルでますます重要視され、いっそう発展することでしょう。

面積：156万6500平方キロ/平均海拔：1580M

首都：ウランバートル（人口約140万人）

言語：モンゴル語 / 総人口：330万人

住民：モンゴル人90%、カザフ人4%、その他6%

教育：6歳から就学。義務教育は2005年から日本の教育基準を参考に10年制が11年制となり、2009年から12年制となる。

元首：大統領、直接選挙制、任期4年、最高4期

議会：1院制、76議席、直接選挙制、任期4年

資源：金、銀、銅、石炭、カシミヤ、羊毛、革

通貨：トゥグリグ

Vast natural and rustic living...all you can see is the grassland Life in Mongolia tells me the meaning of life

Mongolia is a country which is located between Gobi desert in central Asia and needles tree forests in Siberia, where there are many unspoiled patches with a lot of nature. The water is clear, the lakes are just like a mirror, many kinds of beautiful flowers in the grassland. In such a superb view, the nomad has been living naively for a long time. When it comes to politics and economics, Mongolian version Perestroika was promoted after 1989, in 1992, the name of this country changed from Mongolia Republic to Mongolia. Now it is promoting from socialism to market economic quickly. The exchanges and cooperation between Mongolia and Japan are promoting quickly and Japan is leading Mongolia in sport in the international scenes. And civil exchanges are going on actively. Two years ago, the anthracite and copper which were in good conditions welcome in Southern Gobi. They are the reserves of hundreds billion tons as known as one of the best once in the world. From now on, exchanges between Mongolia and Japan will develop more politically and economically, and it will get to private levels in the future.

Area: 1,564,115.75km² /Altitude: 1580m

Capital: Ulaanbaatar/ Population of capital: about 1400000

Language: Mongolian/Total population:3300000

Ethnic groups: mongols 90%, Kazakhs 4%, others 6%

Education: learning from 6years old/ compulsory education: 12 years system from 2009

Head: president/ direct election system/ term of office: 4year/ 4 terms at most

Parliament: 1 house system /76seats/ direct election system/ term of office : 4 years

Resource: gold, silver, copper, coal, cashmere, wool, skin

Currency: togrog(MNT)

Soyol Erdem University has love and hope to participate in social activities actively all the time. We are sure that it will be a stage to create the peaceful society, where cultivate people who can contribute for the superiority of Mongolian ethnic.

